

新たな高知県史【考古編】の編集について

R7.4.9 高知県史編さん考古部会
高知県史編さん事務局

第1 抽出した課題とそこから目指す方向性（編集の前提）

1 現行の高知県史考古編における項目と課題

○現行の『高知県史考古編』は、先土器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代・有史時代の5つの章に分けて記述された。

とりわけ縄文時代から古墳時代の章においては、その冒頭で各時代の総括的な時期区分を示した後に高知県の土器編年、つまり土器に見られる個性の序列と時間差が整理された。それに引き続き、各時代や段階について、高知県独自の文化や様相に焦点を当てながら記述されている。

このことは、地方や地域には独自の文化や個性といったものがあるということを示したといえ、大変高い意義があったと評価することが出来る。

○しかし、刊行されてから56年が経過しているため、刊行後の埋蔵文化財調査や研究の成果を含める必要がある。

高知県は、山地が圧倒的に多く、東西に広い。東は、海からすぐに山に向かう地形が多いのに対し、中央から西では四万十川や仁淀川のほか、物部川や吉野川といった一級河川が山間を縫い、河岸段丘をいたるところに形成しながら流れ、太平洋または瀬戸内海に注ぎ込んでいる。

特に物部川と仁淀川そして四万十川の上流域と下流域では、遺跡が形成される地形や時代に違いが認められる。そして中央から東においても、西とは異なる文脈で形成されたと考えられる考古資料の存在が明らかになってきた。

このことから、それぞれの地域に見られる個性や他地域との違いを反映した県史編さんが必要な段階になっていると言える。

2 新たな県史の目指す方向性

新たな県史を編さんするにあたっては、県内の遺跡と出土遺物そして石造物などの多種多様な考古資料について適切な価値付けを行い、それらが自治体や地域の社会的資源であることを明らかにすることを念頭に、取り組みを進める。

この取り組みにより、高知県に住まう方々や高知県を愛してくれる方々に、県とそれに内包される地域の個性的な考古資料と歴史文化に興味関心を持っていただくことや、自治体や地域が地元の考古資料や歴史文化について調査研究を継続的に行う意識の醸成とその環境の整備を期待することができる。

具体的には、資料編において現行県史の刊行以降に蓄積されてきた調査そして研究の成果を総括し、それらについて現時点での価値付けを図ることで、地域の貴重な社会的資源であることを明らかにすることができる。

本編においては、資料編での総括を踏まえ、調査と研究の進展により期待される新たな知見と資料編を総合した解釈に基づき、新たな県史を叙述する。

第2 編集の基本方針と目標

1 新たな『高知県史』考古編の編集方針

前項で示した現行県史の成果と課題を踏まえ、新たな高知県史では、本県の考古資料について下記の基本方針と目標を掲げ、編さんに取り組んでいく。

(1) 「考古編」の発刊

現行県史の刊行から60年近くが経過した現在、高速道路の延伸や高知空港滑走路の延長などの大規模公共事業に先立つ記録保存調査と、市町村が実施してきた記録保存調査で得られた知見は、豊富なものとなっている。そして、考古学とそれに関連する分野の研究も蓄積されてきた。

それらの情報量は膨大ではあるが、可能な限り調査に取り組んで記録を作成し、次の世代に引き継いでいく必要がある。

そこで、高知県の考古資料と、これまで蓄積されてきた考古資料の調査そして研究の成果を総括し、確実に次世代に引き継いでいくため、新たに「考古編」（資料編3巻、本編1巻）を発刊する。

(2) 地域の特徴に視点をおいた編集

部会発足後の現地調査などを通して調査先や郷土史家などと交流を重ねるなかで、地域や個人によって保存されてきた考古資料の輪郭が、徐々に明らかになってきた。

また、部会内においては、考古資料を健全な形で次世代に伝えていくための担い手として、引き続き自治体や地域が中心となって務めていくことが極めて重要である、という考え方で一致している。

「地域の特徴」は、高知県史編さん基本方針に掲げられている方針の一つであることから、考古編の編集を進めるにあたって、高知県の考古資料を丁寧に叙述する総合的・包括的な視点として「地域の特徴」を設定する。

(3) 高知の考古資料の特徴を提示し探求する

前段に掲げた「地域の特徴」という視点に基づいて本県の考古資料の整理を進め、特徴的な主題を捉えると共に、丁寧に調査を実施して、資料編と本編に重点的に記載することとしたい。

○現時点の議論テーマ

考古資料の社会資源化、自治体や地域の体制充実など

(4) 多角的な資料調査の実施

本県の考古資料の叙述にあたり、「地域の特徴」を軸として特徴的な主題を記述するための調査と編集にあたり、次の視点を重要視する。

- ① 現行県史の刊行以来、増え続けてきた緊急調査と学術調査そして論文などの成果は、質量ともに充実した内容になってきている。

新県史では、これまでの調査研究などで得られた資料はもちろん、個人が大切に保管してきた資料を考古編全体の基礎資料として位置づけ、十分に活用できるよう入念に調査を実施する。

- ② 継続的及び網羅的な調査を実施し、本県の考古資料の特徴が分かるような掲載となるよう努める。
- ③ 県内の考古資料だけではなく、県外で収蔵されている資料の発掘と調査を精力的に進めると共に、戦前の高知の郷土史家や考古学や人類学に造詣の深かった先人達の動向を記録することで、過去を記録して未来へ引き継ぐ意義や価値の本質を明らかにする。

2 考古編編集の目標

以上のような編さん作業の実践と、それによって生じる諸課題の解決を図ることが新たな県史考古編の目標となる。その上で、以下の点に留意することとしたい。

- (1) 考古編が対象とする時代は後期旧石器時代からとし、現代まで保存されてきた考古資料についての県民の理解が、より深まるように心がける。
- (2) 考古部会として計画的な調査を実施し、政治・経済、産業・文化、自然・環境の各分野から幅広い視点で資料を調査し、掲載事項や地域のバランスにも深く配慮して、本県の先人の営みが分かる編集を目指す。
- (3) 網羅的な調査により、県民そして県内外の研究者に対して、高知県の考古資料の基盤的データとして活用できるよう、資料の収集と整理そして記録作成に努めていく。
- (4) 資料調査や編集を進めるなかで、できるだけ多くの県民や団体と関わりを持ち、これまでの県内の自治体史編さんの成果に学ぶとともに、考古資料の調査研究を担える次世代の育成を重視した編さんを行う。

第3 刊行計画と進捗管理

- (1) 考古部会では、資料編第1巻を令和11(2029)年、第2巻を同14(2032)年、第3巻を同17(2035)年に刊行する計画である。また、これに続いて、本編(通史編)を令和21(2039)年に刊行する。
- (2) この長期にわたる刊行スケジュールは、当面の間は「資料編」3冊の刊行が目標となる。資料編の構成や資料の採録方針、編集の円滑な進め方などを協議しつつ、刊行計画が進むように努める。

(3) スケジュールは、考古部会の中でたえず確認しつつ、またその進捗状況を編さん・編集委員会へ報告し、他方で編さん事務局による作業の個別管理などにより、遅れが生じないように適切に管理していく。

【参考資料：現行『高知県史考古編』の項目】

序文

序章

第一章 先土器時代

第二章 縄文時代

時期の区分

第一節 高知県の縄文式土器型式編年論

一 早期縄文式土器

二 前期縄文式土器

三 中期縄文式土器

四 後期縄文式土器

五 晩期縄文式土器

第二節 洞穴の住まい－縄文時代の早期－

一 縄文早期前半の生活と文化

二 縄文早期後半の生活と文化

第三節 狩猟の生活－縄文時代の前期と中期－

一 縄文前期の生活

二 縄文中期の生活

第四節 漁撈文化の繁栄－縄文時代の後期－

一 縄文後期前半の生活と文化

二 縄文後期後半の生活と文化

第五節 採集経済の行きづまり－縄文時代の晩期－

第三章 弥生時代

時期の区分

第一節 高知県の弥生式土器の型式編年

一 前期弥生式土器

二 中期弥生式土器

三 後期弥生式土器

第二節 水稻耕作の開始－弥生時代の前期－

一 弥生前期前半の生活と文化

二 弥生前期後半の生活と文化

第三節 農耕文化の発展－弥生時代の中期－

一 弥生中期前半の生活と文化

二 弥生中期後半の生活と文化

第四節 青銅器の出現－弥生時代の後期－

一 県内発見の青銅器

二 弥生後期前半の文化と生活

三 弥生後期後半の文化と生活

第四章 古墳時代

時期の区分

第一節 高知県古墳時代土器の型式編年

- 一 土師器
- 二 須恵器

第二節 前期古墳時代—四世紀の土佐—

第三節 中期古墳時代—五世紀の土佐—

- 一 古墳と国造
- 二 生活と宗教

第四節 高知県後期古墳の編年

- 一 木棺墓
- 二 横穴石式室古墳

第五節 後期古墳時代の前半—六世紀の土佐—

- 一 古墳と小豪族
- 二 生活と用具

第六節 後期古墳時代の後半—七世紀の土佐—

- 一 横穴式石室古墳の盛行
- 二 寺院の建立

第五章 有史時代

時期の区分

第一節 奈良時代—寺院跡と火葬墓—

第二節 平安時代—手工業生産の発達—

第三節 鎌倉時代—経塚の築造—

第四節 室町時代—銭貨埋蓄の流行—